

農書は現代へのメッセージ

「日本農書全集」が伝える江戸期の生活世界

生まれ育った「地域」で
生き抜いていく「気概」

「農書」とはふつう田畑

耕作のやり方を書き記して
次の世代に伝えようとした
文書群とされている。しか
し、多くの農書は、単にそ
のやり方だけを記した
ものではない。生産の技

農法の記述にほかならず地
域の風土や人情が語り込め
られている。本全集第一巻
所収の『耕作術』は津軽の
稲作について書かれた文書
ではあるが、その書き出し
はこうなっている。

「日本国中を回って花の
都京都、花の江戸、大阪、
名古屋を見て、生まれ故
郷の津軽よりよいところは
ない。また津軽を回って見
ても、御城下弘前や鰺ヶ沢
港の賑わいを見て、自分
の生れ在りがいばんよ

農書である。」
根を張った人生観によつて
書かれ、その全体が現代に
メッセージを送ってくるも
のなのである。地域の個性
は、地域の自然とそこに住
む人とのつきあいの中で育
つ。その生まれ育つていく
港の賑わいを見て、自分
の生れ在りがいばんよ

綿密な現代語訳

「日本農書全集」は原文
だけでなく現代語訳が対照
できるようになっている。
現代へのメッセージとい
う以上、研究者だけでなく
現代のふつうの人々が読め
なくては刊行の意味がない。
だがこれはまことに困
難な仕事だった。農書の多
くは地域に密着して書かれ
たものであるから、それぞ
れの地方のことはで記され
ており、その意味を特定す
ることが大仕事なのであつ
た。たとえば「除草」とい

江戸びとの暮らしの

一級の資料

さて、本全集に収録され
た農書は次頁のような二五
のジャンルに大別される。
全七二巻のほぼ半分を占
めるのが、地域農書で、北
海道南部から沖縄石垣島ま
で、その地域の農事体験生
活(と生産)を記した文書で
ある。

特産物や加工の手法を記
したものも多い。江戸時代
は全国どこでも栽培されて
いたのほいね以外には少な
く、農産物はつまり特産物
であつた。そしてその種類
も多い。別掲の「江戸時代
人づくり風土記」で扱つ

て、また開発と保全は開田
利水、治水、砂防などの優れ
た技術として貴重である。
その他、園芸、林業、漁
業、畜産、救荒も扱い、さら
には農法普及のための往来
物や各地の篤農家の農事日
誌なども江戸時代の暮らし
を知る一級の資料である。

説
中国
文化

百
華

第1期
全20巻

現代文明の行き詰まりを乗り越え、自然と人間が
調和する21世紀を切り拓く鍵は、アジアの生活文
化と思想のなかにある。日中文化往來の軌跡を軸
に、その諸相を写真・図版豊富に描く。

天翔るシンボルたち
幻想動物の文化誌

張 競著 多種多様な一角
獸、聖鳥、龍：圧倒的な図
象の奔流。異形異能の幻想
動物に託した古代人の文化
的メッセージを読み解く。
3200円

おん目の雫ぬくはばや
鑑真和上 新伝

王 勇著 高僧鑑真を命が
けの渡りに駆り立てたもの
とは？ その内面世界と当
時の中国仏教界の実相に光
を当て、知られる情熱を描
き出す。
3200円

しじまに生きる野生動物たち
東アジアの自然の中で

今泉忠明著 野生を捨てて
人間と生きるか、絶滅の道
をたどるか。凍土から砂漠、
熱帯林まで多様な地理条件
に棲む60種の生態と運命。
3200円

農文協

「続刊予定」イネの日中交流 佐藤洋一
郎著ノ真髓は調和にあり 吳清源著の宇
宙 水口藤雄ノ神と人との交響楽 中国
飯面の世界 稲畑耕一郎ほか

ご注文は

農文協〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1

TEL 3585 1141

FAX 3589 1387

URL: <http://www.ruralnet.or.jp/>

価格は税込

農書を現代に活かす15の視点

「日本農書全集」全72巻の分類テーマとその概略

【地域農書】

第1～11、15～41巻

村にあつて自らの農事体験をもとにして書き残されたもので、その地で栽培・飼育された作物全般にわたる、生活と生産が合体した形で記述されたものである。総合農書とも称してよく、地域固有の農法の記述であると同時に、近世庶民の暮らしについての一次資料として貴重である。



「田家すきはひ袋 耕作稼穡八景」(第37巻)

【特産】

第45～49巻、他

各地の商品化された特産物を扱う。(数字は収録巻数)

あい(30・45)、油桐(47)、なたね(1・45)、楮(47)



「清物塩嘉言」(第52巻)

燐(13・31・33)、漆(46)、紅花(45)、さとうきび(14・34・44・69)、茶(47)、さつまいも(70)、しいたけ(45)、じゃがいも(70)、そば(70)、たばこ(45)、朝鮮人参(45)、梨(46)、みかん(46)、海苔(45)、養蚕・絹(35・47)、綿(15)、菓草(68)

【園芸】

第54・55巻

江戸の庭師の残した農書群を収録し、他方で熊本の武士道とつながる養菊書も収める。



「剪花翁伝」(第55巻)

【林業】

第50～53巻

第50巻でさとうきびからの製糖法、松前の輸出海産物、製油、製葛を、第51巻で酒造を、第52巻で漬物、豆腐、麩、醤油、味噌、製塩を、第53巻で塗物、紙すき、績麻、生糸、樟脳、製

森林資源を利用しつつ保全した近世林業の体系を伝える書を収録。盛岡藩、黒羽藩、秋藩の林業技術書や、土砂流失防止と林業生産の直結を説いた琉球の「林政八書」を収める。

【漁業】

第58・59巻

近世の漁業は、いまいう日本型食生活の原型をつくり出したこと、農業生産に多くの資材を提供したこと

と、そして地域それぞれの特異な漁法開発の三点を特徴とする。この視点からの基本文献とともに、江戸湾での釣り、金魚飼育法などの書をも収めた。また第58巻の「小川嶋鯨鯨合戦」は佐賀県呼子の捕鯨の技術と船団組織を扱った絵入りの珍本。

【畜産・獣医】

第60巻

獣医書として、解体新書ならぬ「解馬新書」があつた。他に、家畜への鍼灸術の手引き、飼育と畜舎を論じたものなど多彩である。ペット飼育としての犬、鶏などの飼育手引きも収録。

【農法普及】

第20・61・62巻

先進的な農法がどのようなにして多くの農民に伝えられ、階層差・地域差を解消し、生産力の平準化が果たするか。農法移転の方法を探る。

【農村振興】

第63巻

二宮金次郎、大原幽学、石川理紀之助の文書とともに、下総・南生実村や信濃・芦田村に残るムラ自身のとりきめ文書「議定書」の類を収録。

【開発と保全】

第3・64・65巻

一六六六年の幕府による「山川掟」の発布を境に開発から保全への大転換が行われる。その間の多くの開発記録や、保全技術における甲州流・紀州流・関東流・美濃流、日本海岸の砂防技術、対馬の焼畑(木庭作)論などの基本文書を集大成した。また第3巻の「開荒須知(群馬)」は非農民の開荒記録として貴重。

【災害と復興】

第23・66・67巻

富士山・浅間山・雲仙普賢岳の噴火、善光寺平・伊賀の地震、江戸湾・伊勢湾の津波、荒川・高梁川の洪水などの現場の、すぐれて人間模様の記録、東西の飢饉の状況を伝える二つの文書を収録。

【本草・救荒】

第18・68巻

陸中、建部清庵の「民間備荒録」(第18巻)「備荒草木図」(第68巻)をはじめ、



「備荒草木図」(第68巻)

飢饉に備える実用書を集めた。薬種の国産化を勧める「薬草木作植書付」(第68巻)も収録。

【農事日誌】

第11・42・44巻

農事日誌は近世各村の暮らしを具体的に知るまたとない素材である。田畑と家畜や養蚕、耕地と用水や採草地との結びつき、販売と資材の購入、季節の移り変わりや年中行事・信仰・遊び、ムラの共同作業など興味はつきない。肝煎の手になる羽後、畑作地帯の武蔵と下野、米単作の越中、加賀、村医者の書いた三河、寺子屋師匠を兼ねた美濃、稲と綿の河内、綿中心の備後、砂糖を作った讃岐、自給的主穀生産の薩摩の日誌に第11巻の「野口家日記」を加え13編を収録。

【絵農書】

第26・71・72巻

絵巻、襖、欄間絵、屏風、掛物、奉納絵、絵暦、絵馬、

「日本農書全集」全72巻・別巻1

A5判(第26・71・72巻・別巻のみB5判)、上製・箱入 各4200～7500円、別巻「収録農書一覧/分類索引」25000円【編集委員】第1期・山田龍雄、飯沼二郎、守田志郎、岡光夫、第2期・佐藤常雄、徳永光俊、江藤彰彦

「九谷色絵農耕煎茶碗」(第72巻)

